甲第45号証

令和３年　（ワ）　第　１８６８４　号

中央新幹線工事差止請求事件

陳述書

東京地方裁判所　民事１２部　御中

２０２２年１２月２１日

東京都大田区田園調布２丁目２１番１８号
原告（原告番号　３）　保科　由記子

私は田園調布２丁目に住んでいる保科由記子と申します。

長年共働きをしながら３人の子どもを育てた末、１４年前にこの地に土地付き住宅を入手し、三多摩地域から引っ越してきました。近くの高台の公園から多摩川の流れを一望でき、その水面を飛び交う瑠璃色に光るカワセミ、川向うに沈む真っ赤に燃える夕日に心を奪われ、余生はここに根を下ろそうと決めました。利便性が高く病院にも近く静かな自然環境に恵まれて、この地での生活に満足していました。

ところがある日、自宅の縁の下に巨大トンネルが掘られ、リニアが時速５０５ｋｍのスピードで走るという話が寝耳に水のように飛び込んできたのです。いったいどこをリニアが走るのか、その時点では近隣の住民たちもよく分からないという状態でした。

ＪＲ東海は、説明会の日程を２０１８年４月に区報で小さく告知したようですが、私は気がつきませんでした。

その後、ＪＲ東海から情報が出てこないので、住民自らで勉強会を行ないました。

外環道工事では、大深度法で認可され地上には影響がないはずの工事によって、世田谷区

の野川で正体不明の気体が勢いよく噴き出していることを知りました。野川においてまるでジャグジーのように勢いよく水泡が噴き出している映像を見て、恐怖を覚えました。この正体不明の気泡について調査が行われ、それが有害な致死性酸欠空気であることが判明しました。また、シールドマシンの掘削に使用された気泡材が由来であるということもわかりました。

川遊びをしている子どもたちが、好奇心からこの吹き出る気泡をのぞきに行っていたら悲惨な事故が起きていたのではないでしょうか。また、この酸欠空気が川ではなく、住宅や学校などの地下室にたまっていたらどうなるのでしょうか。酸欠空気による死亡事故は何度か報道で目にしておりましたので、行われている工事は大変危険性が高いものであると感じました。

ＪＲ東海から説明を聞く事もないまま、２０１８年１０月１７日に国土交通省からＪＲ東海に大深度地下使用の認可が下されました。このようなＪＲ東海及び国の暴挙に対し、私は怒りに震えました。我が家の下は私が独占的排他権を有する私の所有物です。シールド工法による振動、騒音、陥没、地盤沈下、低周波、家屋の損壊など、不安や懸念が次々と脳裏を襲い、眠れない体になりました。そして、２０１９年1月１０日に国土交通省に対して認可取り消しを求める審査請求を７３０名の沿線住民と共に提出しました。

審査請求に対する国交省の２０２０月5月２５日付けの弁明書では「単なる抽象的危惧感に過ぎない」と私たちの抗議の声は一蹴されました。ＪＲ東海も国交省も、このように「大深度地下における工事では地上に影響は及ばない」と喧伝し続けてきました。

ところが、私たちの懸念がついに２０２０年１０月１８日調布市東つつじが丘で現実のものとなりました。大陥没事故が起こり、さらに三か所の地中に空洞が発見されたのです。いままでＪＲ東海らから聞かされていた「安全神話」が全くの嘘であることを思い知らされました。

私は２０２１年8月末のＪＲ東海の住民説明会に参加し、質問をしました。その主旨を申し上げます。

我が家は、一部が盛土で造られた可能性のある崖の上に建っています。田園調布の地形は起伏が激しく、地下水も豊富に流れています。また、昨今の豪雨災害の多くは、線状降水帯によるものと報道されています。長期間降り続づく大雨が地盤を緩めて、土砂崩れ、地崩れ、崖崩れ、盛り土崩れを引き起こし、住民の命を奪っています。テレビの報道を目の当たりに

し、地盤に関する大きな被害が日本のあちこちで起きていていると知り、国土の特殊性を考えさせられました。

リニアトンネルが我が家のすぐ下を通る計画が進んでいます。トンネルの影響で我が家の崖が崩れることはないのか懸念しています。豪雨が頻発することによる地表や地下を流れる水の増加の一方、地下では、トンネルを掘ることによって地盤が変化し、緩みが生じ、トンネル周囲に水みちが発生するようでは、地盤がズブズブになるのではないかと心配です。そういう事が絶対にないと証明していただきたい。時間雨量の許容値、安全値を示していただきたい。どんな工事をやってもくずれない数量値を示していただきたい。堅牢なトンネルをつくったからといっても、それはトンネル自体の話で、新たに発生するトンネル周辺の水みちは止められないのです。

この私の発言に対してＪＲ東海は、３つに分けて答えました。

(1) 崖くずれに対して。 「シールド工事は事前に調査掘進を行います。施工管理を適切に行えば、地上での利用は支障ない工法であると考えています。」と答え、私が証明していただきたいことへの回答になっていませんでした。ＪＲ東海は回答の際「利用」という言葉を使いましたが、私は自分の所有している土地に住んでいるのです。ＪＲ東海が所有している土地を利用させてもらっているのではありません。そして今まさに調査掘進は故障し止まったまま掘れない。我が家の地下でも起こりうることなのです。

(2) 地盤について。 「弊社ボーリング調査、様々の東京都内にある資料を、きちんと採取して専門家にもご確認していいただいているので調査は充分に行ったと考えている」と答えられました。十分に調査した結果が調査掘進の頓挫であれば、住宅地の地下掘削などできないと証明されたのではないでしょうか。我が家の下で止まってしまう恐怖には生きた心地がしません。

(3) 大雨の影響について。 しばらく沈黙したのち、ようやく出てきた回答は、「固結シルトは水を通さないのでトンネルの影響が地表面に出ることは想定していない。」その上、大田区内の道路の下で行われている一般的な治水用シールドトンネルの話を延々と聞かされました。さらに私に対して「誤解なさらないように」とか、「混同なさらないようにお願いします」とまで言われました。私は住宅地真下のリニア巨大トンネルの話をしているのに関わらず、話は大田区の治水トンネルのことにすり替えられました。再質問や対話によるやりとりは一切できませんでした。また、メディアは中に入れず、写真も私語も許されない異様な説明会でした。ＪＲ東海の説明会は非常に粗雑で、理解も納得もできず、怒りすら覚え、ますますＪＲ東海に対する不信感がつのりました。このような企業は信用できません。

その後、会場ではこのような発言もありました。

「ＪＲ東海は『外環事故から学習する』と言っていました。学習中で人の家の下を掘らないでください。リスクを完全になくすことはできないんじゃないですか！事故が起こらない工事なんてないんです。工事をすれば、今まで通り事故が起こるんです。住民にリスクを負わせたままで掘進のスタートは許せません。」。会場から盛大な拍手がわき起こりました。私も一緒に拍手をしました。

改めて考えても、ＪＲ東海の説明会は理解も納得も出来ず、ますます不信感がつのる一方です。ＪＲ東海は住民の生命・財産・生活をなんだと思っているのでしょうか。トンネル掘削ルートの上では私たちや子どもたち、そして孫たちが生きているのです。多くの生徒が通う学校もあるのです。

我が家や地域の地盤にどのような水脈があるのか、地盤がどのような地質であるのか、正確には誰にもわからないのです。一度我が家の地盤が破壊されてしまうと、私にはもはや転居したり建替えたりといった、今の生活と同等の生活を取り戻すだけの財力も体力もありません。このまま今の場所で生きていくしかありません。我が家の地盤は人生の最後に辿りついた生活の土台なのです。私の人生は既にリニアトンネル掘削計画に翻弄され蝕まれています。一刻も早く工事の差し止めを願います。

以　上